

平成 16 年度第 2 四半期における運用状況

平成 16 年度第 2 四半期（7 月～9 月）のポートフォリオ別の運用状況

1 被保険者ポートフォリオ

平成 16 年度第 2 四半期（7 月～9 月）における被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、9 月末の時価総額は 494 億 65 百万円となり、第 2 四半期総合収益は - 69 百万円となりました。この間の修正総合利回りは - 0.15%となっています。

平成 16 年度通期（4 月～9 月）の総合収益は、参考欄のとおり + 2 億 28 百万円、修正総合利回りは + 0.50%となっています。

（単位：百万円、%）

資 産	16 年 6 月末 時価総額	第 2 四半期保険料・ 国庫補助投下額	計 (+)	16 年 9 月末 時価総額	第 2 四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り	時価総額 構成割合
国内債券	32,640	2,461	35,102	35,409	307	0.92	71.6
国内株式	7,089	850	7,939	7,436	-504	-6.82	15.0
外国債券	1,577	399	1,975	2,074	98	5.48	4.2
外国株式	4,472	-25	4,447	4,484	37	0.83	9.1
短期資産	193	-122	70	62	-8	-3.74	0.1
合 計	45,971	3,564	49,534	49,465	-69	-0.15	100.0

（注）1．外国債券・外国株式に係る利金・配当金の受入により発生した為替差損益及び保管手数料等は、「短期資産」欄で整理しています。

2．単位未満を四捨五入しているため、「合計」欄で合わない場合があります。（以下同じ）

（参考）

平成 16 年度通期（4 月～9 月）の運用状況

（単位：百万円、%）

資 産	平成 15 年度末 時価総額	16 年度保険料・ 国庫補助投下額	計 (+)	16 年 9 月末 時価総額	16 年度総合収益 -	修正総合 利 回 り	時価総額 構成割合
国内債券	33,240	1,920	35,160	35,409	249	0.77	71.6
国内株式	4,166	3,695	7,861	7,436	-425	-6.07	15.0
外国債券	1,935	9	1,944	2,074	130	8.19	4.2
外国株式	1,555	2,639	4,194	4,484	291	6.84	9.1
短期資産	1,438	-1,360	78	62	-15	-7.46	0.1
合 計	42,335	6,902	49,237	49,465	228	0.50	100.0

2 被保険者危険準備金ポートフォリオ

平成 16 年度第 2 四半期（7 月～9 月）における被保険者及び待期者に係る付利準備金及び調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

（単位：千円、％）

区 分	資 産	16 年 6 月末 時価総額	第 2 四半期 繰入額	計 (+)	16 年 9 月末 時価総額	第 2 四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り
付利準備金	短期資産	145,461	13	145,474	145,500	26	0.02
調整準備金	短期資産	72,307	-59	72,248	72,260	13	0.02
合 計		217,768	-46	217,722	217,760	38	0.02

3 受給権者ポートフォリオ

平成 16 年度第 2 四半期（7 月～9 月）における受給権者に係る資産の運用状況は、次表のとおりとなっています。

（単位：千円、％）

資 産	16 年 6 月末 時価総額	第 2 四半期 繰入額	計 (+)	16 年 9 月末 時価総額	第 2 四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り
国内債券	13,224	7,618	20,842	21,665	823	4.83
短期資産	663	696	1,359	1,359	0	0.00
合 計	13,887	8,314	22,201	23,024	823	4.59

4 受給権者危険準備金ポートフォリオ

平成 16 年度第 2 四半期（7 月～9 月）における受給権者に係る調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

（単位：千円、％）

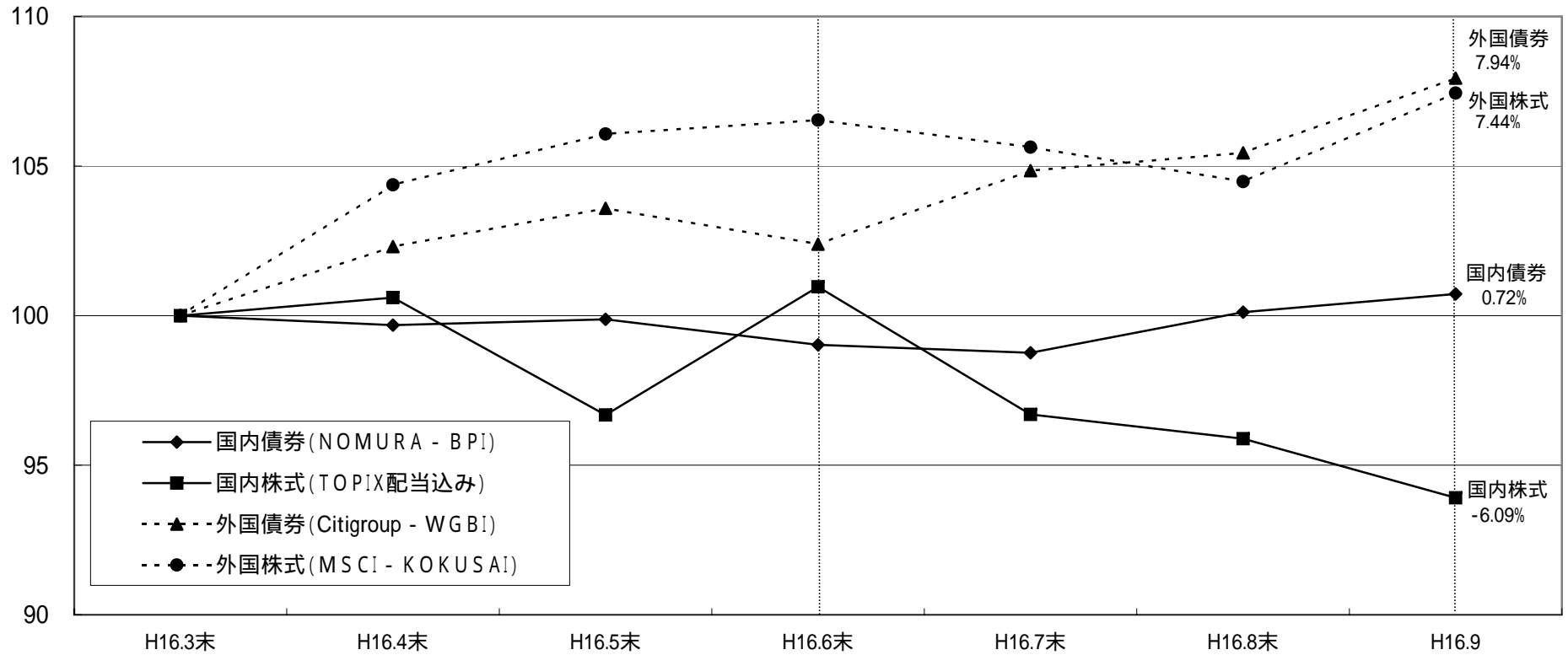
区 分	資 産	16 年 6 月末 時価総額	第 2 四半期 繰入額	計 (+)	16 年 9 月末 時価総額	第 2 四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り
調整準備金	短期資産	10,616	4,003	14,619	14,620	0	0.00

（参考）

年金資金の運用は、長期的観点から行うべきものであり、その運用状況についても、長期的に判断することが必要ですが、情報公開を徹底する観点から、四半期毎に運用状況を公開するものです。

今回の公開は、平成 16 年度第 2 四半期におけるポートフォリオ別の運用状況をお知らせするものであり、今回の運用状況によって付利額が決まるものではありません。

ベンチマーク・インデックスの推移 (H16.3末=100)



ベンチマーク騰落率

	平成16年4月～9月
国内債券 (NOMURA - BPI総合)	0.72%
国内株式 (TOPIX配当込)	-6.09%
外国債券 (Citigroup - WGBI)	7.94%
外国株式 (MSCI - KOKUSAI)	7.44%

運用環境

	平成15年3月末	平成16年3月末	平成16年6月末	平成16年9月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	0.700%	1.435%	1.780%	1.440%
(NOMURA - BPI総合)	298.741ポイント	293.529ポイント	290.657ポイント	295.651ポイント
国内株式 (日経225)	7,972.71円	11,715.39円	11,858.87円	10,823.57円
(TOPIX配当込)	886.77ポイント	1,340.15ポイント	1,353.03ポイント	1,258.51ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	3.802%	3.837%	4.583%	4.123%
(Citigroup - WGBI)	254.02ポイント	254.41ポイント	260.48ポイント	274.61ポイント
外国株式 (NYダウ)	7,992.13ドル	10,357.70ドル	10,435.48ドル	10,080.27ドル
(MSCI - KOKUSAI)	780.704ポイント	973.517ポイント	1,037.156ポイント	1,045.929ポイント

専門用語の解説

ポートフォリオ

もともとは、折りかばんを意味するものであったが、投資家が保有資産をさまざまな証券(銘柄)で組み合わせて保有していることから転じて、証券分析においては、種々の有価証券を組み合わせたものを意味するものとして使われている。

総合収益

有価証券の売買損益や債券利息、株式配当金といった実現収益だけでなく、未収利息の増減や、評価損益の増減を加味した時価ベースの収益のこと。

修正総合利回り

運用成果を測定する尺度の1つ。

総合収益率は、運用元本を簿価ベースで計算したものであるのに対し、修正総合利回りは、運用元本に時価の概念を加味した収益率のことで、総合収益率より更に時価ベースにした収益率。

算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す際に、時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として、広く普及している。

(計算式)

$$\text{修正総合利回り} = \{ \text{実現収益} + \text{評価損益増減}(\text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益}) + \text{未収収益増減}(\text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益}) \} \\ \div (\text{運用元本平均残高} + \text{前期末評価損益} + \text{前期末未収収益})$$

ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の対象となる基準指標。

運用収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に、その比較が不可能である。しかし、投資環境を反映する基準指標(TOPIX等)があれば、基準指標に対してどの程度上回る収益率を達成できたかを算出することにより、運用期間の異なるものとの比較が可能。

* NOMURA - BPI総合

野村総合研究所が作成・発表している国内債券市場のベンチマーク。国内債券のベンチマークとしては代表的なものであり、基金もベンチマークとして採用。

* TOPIX(配当込)

東証一部上場全銘柄の株価を株式数で加重平均して算出したもの。国内株式市場の代表的なベンチマークであり、基金もベンチマークとして採用。

* Citigroup - WGBI(除く日本)(ISSB - WGBI)

シティグループが作成・発表している世界国債のベンチマーク。時価総額につき一定基準を満たす世界の国債について、投資収益率を指数化したもの。国際債券投資のベンチマークとしては代表的な存在。基金も外国債券のベンチマークとして採用。

* MSCI - KOKUSAI(配当込)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成・発表している日本を除く主要国で構成された世界株指数。対象国の包括性、切り口の多様性等の点で、国際株式投資のベンチマークとしては代表的な存在。基金も外国株式のベンチマークとして採用。